1月
2021年
153号

地域共創・未来共創の大学へ

広報 沖縄大学 OKINAWA UNIVERSITY

発行
沖縄大学経営企画室
〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555
☎ 098(832)2910
http://www.okinawa-u.ac.jp

Webサイト リニューアルしました!

2021年
年頭あいさつ

Okidai Vision 2028

地域がキャンパス、地域のキャンパス

沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります

学長

盛口 満

ここ15年以上関わっているイベントが、今年度はコロナの影響で中止になったという連絡がきました。そのイベントとは、神奈川の私立幼稚園で行われているイベントです。小田急線沿線の駅から車で5分ほどという交通の便のいいところにありながら、その幼稚園は畑と林に囲まれています。園長を務めるアマノ先生が、あるとき思い立ち、自力で資金集めから始め、何もかも一から作り上げた幼稚園です。都市圏にありながら自然環境に恵まれた地にあることを利用して、園の子どもたちは畑で野菜を作り、果樹をもぎ、はてはイナゴをとって佃煮にして食べたりします。園舎はすべて木造だし、園内にはヒツジも飼われていて、その毛を刈って、子どもたちがフェルト細工を作ったりもします。体験を重視した全人教育を目指す幼稚園なのです。

「ただしね、園を卒業すると、普通の小学校に進学しちゃうでしょう。だから半年に一回、呼び戻して、再教育をしたいの」

アマノ先生は、そう話します。そしてその再教育の場である「卒園者対象・科学教室」に駆り出されるようになって長いことになります。園を卒業し、小学生になった子どもたちを集めて、骨の話や木の実の話、化石の話などなどを繰り広げてきました。

幼稚園が主体となって、卒園者に再教育をするという発想がおもしろいところ。なにより、子どもたちが、自分らの育った園を「立ち戻る場」としてとらえているのがいいなと思います。集まってきた子どもたちは懐かしそうに園内を駆け回り、久しぶりに会った友人たちと笑い合い、イベントの冒頭のアマノ先生の話にことさら真剣に耳を傾けます。

僕たちは人生の中でいろいろな場に出会います。そこは「やりすごす場」であることもあれば「立ち戻る場」や「かけがえのない場」であることもあります。沖縄大学は、みなさんにとって、どんな場なのでしょうか。沖縄大学が、多くの学生のみんなにとって、「立ち戻る場」としてあったらいいなと思います。はたまた、自分にとって、そんな場となるためにしておくことはあるでしょうか。

新年明けて、イベントが再開されるようになることを祈っています。

理事長

佐喜真 實

明けましておめでとうございます。

年始は新年を寿ぐ挨拶が常ですが、本年は各種行事の自粛ムードの中、様子が違います。新型コロナの話は旧年に置いておきたかったのですが、まだまだコロナ対策が続きそうです。皆様におかれましても、丑年の2021年は例年にも増して明るくて平穏な年になって欲しいという強い思いをもって迎えられたことと存じます。是非とも「コロナ終息」という、お互いの、いや全人類の希望が叶う年になればと念じる一心です。

昨年の前学期は、新型コロナに拠る沖縄県の緊急事態宣言下、キャンパスへの学生入構制限などのいわゆる大学クライシスの状況にありました。ただ後期は学内のコロナ対策も軌道に乗り、「知」と「人」の交流拠点としての学びの場を取り戻すべく、対面授業を増やし、学生同士の語らいがあるキャンパス復元を図ってまいりました。

一方で、デジタル化の推進を行い、オンラインによる遠隔授業の良さも取り入れながらのハイブリッド型授業の体制整備も行いました。コロナの完全な終息までは、対面と遠隔授業を織り交ぜながら、教育の質を維持・向上させる努力を継続してまいります。

さて、大学を取りまく環境は、新型コロナの影響もあり、さらに厳しくなっております。学生の就職環境も同様です。ただ、そのような中、小学校教員採用試験への合格、行政書士、宅地建物取引士などの資格試験への合格などに見られるように本学学生の学びの成果は着実に上がっております。

新型コロナの教訓は、このパンデミックは一個人、一企業、一産業、一国の努力だけでは解消できないということでしょう。本学の教育理念にもある「共創」の精神をフルに発揮しないと、この手ごわい相手は消えそうにありません。コロナ禍の困難の中でも、本学の学生がオンラインでの学園祭をやり遂げたように、大学と学生の共創体制を強靭にし、コロナに打ち勝つ年にしたいと思います。

今後とも全学の一体感を高めて、さらに学生の夢が実現できる大学になるよう邁進いたしたいと存じます。本年も宜しくお願い申し上げます。

『教職の沖大』！

2020年度沖縄県教員採用試験

現役合格者 過去最高！22名

今年度もこども文化学科の学生が頑張ってくれました。沖縄県教員採用試験において見事22名の学生が現役合格を決めました。（4年次41名が受験、1次合格者32名、最終合格者22名。既卒生含めると38名合格）

新型コロナウイルス感染症の影響による、教育実習の延期等もあり、今年度の教員採用試験受験生たちはとても大変な状況下での受験となりました。教員採用試験の日程や出題数などにも影響があった中で、学生たちがとにかく夢に向かってやるべきことに取り組み続けた成果です。学生を代表して、上地南那さんにコメントをいただきました。

人文学部
こども文化学科
4年次
上地 南那
（読谷高校出身）

沖縄大学での学びについて

私は、沖縄大学での4年間でたくさんのことを学びました。1年生の時は観察実習、2・3年生ではインターンシップ、4年生では教育実習、と毎年学校へ足を運び、現場での教師の仕事や、子どもたちの様子を自分の目で見て、学んできました。また、こども文化学科特有の行事である「学校ごっこ」や「沖大小中」では実際に子どもたちに授業をしたり、みんなで主体的な授業を求めて試行錯誤する等の経験をしました。普段の講義や教育実習に向けて実施する「模擬授業大会」などでは、指導案を作り、授業をする力をつけ、4年間を通して教師になるための学びを継続して行ってきました。また、1年生から4年生まで同じメンバーで学び続けるということもあり、とても仲が良く、教員採用試験も一致団結して取り組むことができました。

教員採用試験対策について

一緒に頑張るメンバーがいたこと、そしてたくさんのサポートがあったおかげで乗り越えることができたと思います。一次試験は自分との戦いでした。2時間、4時間、10時間と勉強時間を増やしていきながら勉強の習慣をつけていき、「限界を知る機会」というゼミの先生の言葉を胸に、コツコツと勉強を続けました。勉強法についても、卒業した先輩方からアドバイスをもらいながら試行錯誤したり、苦手なものは得意な人を見つけたりして、教え合いました。友人と過去問や資料をもとに分析をしたり、問題を出し合ったりして切磋琢磨することで勉強のモチベーションを保っていました。今回はコロナで自粛生活になった時期もあり、そんな時はZoomなどを活用し一問一答を行うなど、学校に行けない中でも、みんなで協力して一次試験を乗り越えました。

二次試験はコロナの影響で、今までとは違い、実技も全てなくなり模擬授業と面接のみといった試験内容でした。二次対策は、「いかに恥を捨てて人前でできるか」という課題でした。面接練習では自分の考えをもとに、グループで意見を交換しながらより良い答えを見つけていきました。現場で教員の経験がある先輩や、先生にアドバイスをもらいながら考えを確立し、何度も何度も人前で発言する練習をしました。模擬授業では、その単元の細案を作りしっかりと流れを把握し、みんなで議論しながら授業を作り上げ、先生の前で繰り返し模擬授業を行いました。コロナの影響で二次試験の日程が1ヶ月延期になってしまいましたが、みんなで練習を続け、集中力を切らさずに頑張りました。

たくさんの練習の甲斐もあって、本番では落ち着いて自分の力を発揮することができました。みんながいないと絶対に合格できていなかったと思います。また、先生方や教職支援センターの方々の手厚いサポートのおかげで、試験対策に安心して取り組むことができ、とても感謝しています。教員採用試験を通して、ライバルであり仲間であるみんなと高め合って頑張ることができ、自分も成長することができ、素晴らしい経験になりました。

教員として働くことへの意気込みについて

4月から学校現場で働くことをとても楽しみにしている反面、不安でいっぱいです。しかし、大学4年間で学んだことをしっかりと生かし、恩師である先生からの「ゼロベース」という言葉を胸に学び続けていきたいと思います。また、こども文化学科での出会いを大切にしながら、教員になってからも助け合って、高め合っていきたいです。そして、どんな時も「子どもたちのために」を一番に考えられる教師を目指して、努力していきたいと思います。

第61回 沖大祭 オンラインで配信!

2020年、新型コロナウイルスの感染が広がり未曽有の不幸が世界を襲う中、人が集い、楽しむイベントや祭り等が各地で中止を余儀なくされました。沖縄大学でも今年は学園祭を中止せざるを得ないのではと思っていましたが、学生たちの「ツナゲタイ」という思いが、今できるカタチでの学園祭を実現させました。

「沖大生のやりたいことを実現していく新たなプロジェクト」「地域とコラボする大学祭」「みんなで育てる大学祭」をコンセプトに実行委員を中心に準備が進められたくさんの企画が立ち上がり、無事に11月1日12時から8時間にわたるオンライン配信の沖大祭を開催できました。

学生の活動紹介だけでなく、学長の魅力に迫るコーナーや学科紹介等盛り沢山の内容で、学生のアイディアに賛同いただいたORANGE RANGE YOHさんやHYさん、DELIVAさんと共に、沖縄大学ならではのオンライン学園祭が完成できました。

あらためて「繋がることの大切さ」を感じた学園祭でもありました。学園祭でスタートした活動や企画は今後も継続して繋がっていく予定です。今号では学園祭の各取り組みを紹介します。

実行委員長でMCの橋口さん、自分の出演時以外は照明係や裏方作業をサポート

フロアディレクターも務めます！

沖大にユリを植えようプロジェクト！

学園祭前の3日間、学内にユリの球根の植え付け作業を行いました。きっかけは、本学運転手の泉さんが植えたユリが2020年の4月末に花を咲かせていたのを見て、もっとたくさんのユリを学内に植え、花いっぱいのキャンパスにしたいと発案されたものです。プロジェクトリーダーとなるこども文化学科1年次の仲地菜美さん（写真中央）は、「前期はほとんど大学に来ることがなかったのですが、後期が始まり対面授業が行え、楽しい学生生活がおくれています。大学楽しい！です。学園祭に向けた活動を通して、学科を超えて仲間もできています。」と話していました。来年の初夏に満開となるであろうユリの花の成長も楽しみです。

沖大エイサー部

毎年、学園祭の大トリを務める本学エイサー部。コロナ禍のなか、活動を自粛していて、今年度最初で最後の演舞をリモート学園祭で披露することになりました。その想いを汲んだ実行委員のメンバーはドローン撮影にも挑戦しました。エイサー部部長の伊保裕太さん（経法商学科4年次）は、「コロナ禍で道ジュネーなどもなくなり、とても残念で寂しいし辛いです。収録は、私たちにとっては最初で最後の演舞ということでOBもかけつけてがんばりました。私は4年次なのでこれが最後の学園祭となり、4年間のエイサー部の活動が走馬灯のように思いだされ、最後は感動して涙が溢れました。」とコメントを寄せてくれました。

あしびーぬスコーレー

学生アーティストとして活躍するKOOTAさんとORANGE RANGE YOHさんとのコラボ企画です。YOHさんが昨年「学問と社会」の特別講師を引き受けていただいたことが縁となり、KOOTAさんが今年立ち上げた保育園児と絵の交流をするプロジェクトに賛同いただき、大学近くにある「かねしま保育園」と南城市にある「あおぞらこども園・あおぞら第2こども園」を訪問し保育園児と交流しました。

KOOTAさんとORANGE RANGE YOHさんが制作したグッズの販売も行われました。

ゲッチョ先生×HY企画&HYライブ

沖縄が誇るアーティストHYさんを大学にお迎えし、ゲッチョ先生こと盛口満学長の研究室にある不思議なものを紹介するコーナーや各学科の学生による学科紹介、そして学園祭のビッグイベントとなるHYさんによるミニライブも配信しました。

沖大祭を終えて

今回、沖大祭をオンラインで継続させたということが新たな挑戦として取り上げられますが、実際は「大学祭自体の大変革」が根幹にありました。キッカケは昨年の沖大祭。私自身ブースを出店する中で、偶然子どもをターゲットとしたブース同士で協力をする関係性を作ることができました。ここから「出展団体同士が協働する大学祭運営の構想」がスタートしたのです。年明け、オープンキャンパスのスタッフを中心に実行委員会のコアメンバーが組織され、従来の企画や運営方法を覆す構想をする中でコロナ禍を迎えました。ここでくじけるかと奮起し、オンライン化を決意する流れとなりました。

新たな挑戦に対して賛同してくださる学生や教職員の方々・地域の皆様に支えられ、多くのゲストの皆様のご出演、地域を中心とした11社のご協賛をいただき開催が実現しました。またオンライン化に伴い、プロの方々にもご教授とご参加をいただきました。

ご協力いただいた皆さんは「先方」ではなくチームの「協力者」であり、共に創り上げた沖大祭となりました。

「つながりをつくり、キッカケとする、スタートの年にしたい。」実行委員長として私はこの種をどれだけまくことができるのかが使命でありました。沖大祭を終え、実行委員からは「次は○○したらいいのでは？ 次回までに○○に取り組みたい。」と次を見据えた声が上がりました。どのような評価をいただくよりも喜ばしい瞬間です。開催できないという0（ゼロ）の状態から、1でも2でもいいので生み出すことができた。この体験は実行委員一人一人の記憶として、また大学の記録にも残りました。

結びになりますが、今回ご協力いただいた地域の皆様へのお礼をお伝えすると同時にオンライン沖大祭は終了しましたが、継続的に活動は続いていきますので、今後も期待してほしいと思います。

沖大祭実行委員長・福祉文化学科3年　**橋口 風伍**（読谷高校出身）

◆News&Topics◆

News&Topics 2020 10/10 ◆「チャレンジスポーツ教室」

沖縄大学では中級障がい者スポーツ指導員の資格取得に向け強化プログラムが始動しています。沖縄県下では、本学は唯一「中級障がい者スポーツ指導員」資格が取得でき、今年度後期より新規科目「障がい者スポーツ指導演習Ⅰ」を設置しています。

中級指導員取得のためには、所定の単位のほかに 80 時間の活動体験が必要となり、これまでは時間数の確保に課題がありましたが、月に一度学内で「チャレンジスポーツ教室」というイベントを企画し、講義とイベント開催という形で実施していくことになりました。

第 1 回目は、沖縄ボッチャクラブから 4 人の選手と学生 12 人で交流試合を行い、第 2 回教室（11 月 14 日開催）では、沖縄で唯一のブラインドサッカーチーム「琉球 agachi」の選手･スタッフ 5 名と学生 12 名でブラインドサッカー交流会を行いました。

News&Topics 2020 10/21 ◆沖縄大学論の収録に『FC 琉球上原慎也選手と西河翔吾さん』が来学

沖縄大学論（講義日 11 月 20 日）のゲストスピーカーとして本学出身の FC 琉球上原慎也選手（写真右）と元 J リーガーで今年度から FC 琉球のフロントスタッフとして活躍されている西河翔吾さん（写真左）が収録のために沖縄大学を訪れました。

卒業生である上原選手が「後輩につたえたいこと」をテーマに、トーク形式で収録。上原選手のサッカーへの思いはもちろんのこと、これまであまり明かされたことのない試合中の心情などにも迫る、人間味溢れるトーク内容となりました。

News&Topics 2020 8/25 ◆FD 開催

遠隔授業支援本部主催の FD（ファカルティ・ディベロップメント。教育方法向上のための研修）が開催されました。今回は、本学教職員だけでなく非常勤の先生方あわせて 88 人が参加、前期講義の実施方法や期末テストの方法等、先生方の遠隔授業についての事例報告や意見交換等が行われました。

【事例報告①Moodle を主に活用して定期テストも実施(髙良沙哉先生)】
【事例報告②語学科目の講義について（渡邉ゆきこ先生)】
【事例報告③実技科目の講義について（嘉数健悟先生)】
【事例報告④オンラインと対面講義のハイブリッドについて (大城淳先生)】
【事例報告⑤オンライン試験の実施について（八幡幸司先生)】
【事例報告⑥前期授業参加者の推移（城ケ原貴通先生)】

News&Topics 2020 9/18 ◆2020 年度 9 月卒業式

沖縄大学 9 月卒業式が開催されました。学部生 13 人､大学院生 1 人、合わせて 14 人が卒業を迎え、盛口満学長より出席者ひとりひとりに卒業証書が手渡されました。また式では盛口学長より門出を祝う言葉が卒業生に贈られました。

News&Topics 2020 10/9 ◆我如古ももこさん（経法商 2 年）第 1 回碧の会 ネクストリーダー賞受賞！

本学経法商学科 2 年次の我如古ももこさん（写真右）が、沖縄県中小企業家同友会女性経営部会「碧の会」が取り組む、次世代の女性リーダー育成を目的とした企画に応募し見事「第 1 回碧の会ネクストリーダー賞」を授賞しました。

我如古さんは「女性がキャリアステップを踏める社会へ」と題して課題文を提出し、日本での女性の地位や社会進出の現状やワーク・ライフ・バランスとキャリア形成との順応等について述べ、見事第 1 回目となる賞を獲得しました。

◆News&Topics◆

News&Topics 2020 10/27

◆第３回 OKIDAI THE 職人倶楽部『謝花久乃さん』

沖縄で活躍する人のビジネスヒストリーを伺い、人生100年時代を生き抜く教養や術を身につけるきっかけにと企画している「OKIDAI THE 職人倶楽部」講演会、第３回目の講師は、那覇市にある伝統菓子店謝花きっぱん店の６代目、謝花久乃さんをお招きしました。

銘菓ができあがるまでの工程や材料等についての説明はもちろん、謝花さんは大阪の大学在学中にイギリス留学を経験し、大学卒業後は再びイギリスに渡ってロンドンの大手金融系企業に就職された経歴もお持ちで、10年に渡る海外生活のことなどについてもお話しされていました。

◆本学野球部４戦全勝Ｖ　南部九州ブロック決勝トーナメントへ出場！ フレッシュトーナメントも３戦全勝！

第104回九州地区選手権南部九州ブロック沖縄地区予選が９月26日から10月11日まで行われ、本学硬式野球部は４戦全勝で優勝を果たしました。

また、10月17日から開催された第22回沖縄県大学野球フレッシュトーナメントでも３戦全勝の結果を収め、沖縄地区優勝を決めました。

◆サッカー部３年ぶり２部昇格

第35回九州各県大学リーグ決勝大会が11月23日まで鹿児島県で行われ本学サッカー部は準優勝し、九州大学リーグ２部へ自動昇格を決めました。

News&Topics 2020 11/11

◆本学硬式野球部 幸地投手 髙島外野手 四国アイランドリーグplus 合同トライアウトに合格

沖縄大学硬式野球部の幸地亮汰投手（経法商学科４年）と髙島輝一朗外野手（福祉文化学科４年）が11月８日に開催された四国アイランドリーグplus合同トライアウトに参加し、合格いたしました。今後、両選手はNPB入りを目指し、徳島インディゴソックス球団と入団交渉を行います。

News&Topics 2020 10/16

◆管理栄養士国家試験に向けた「学習支援セミナー」スタート

栄養士の上級資格として知られる管理栄養士。本学でも受験者全員の現役合格を目指し、サポート体制を強化しています。本セミナーは１年生から無料で受講ができ、コロナ禍の中、オンライン受講にも対応しています。

News&Topics 2020 10/21

◆全学科対象！『LEC ×沖大 公務員対策講座のガイダンスを開催』

LEC東京リーガルマインド那覇本校から嘉数講師をお招きして、本学で受講可能な公務員対策講座のガイダンスが行われました。沖縄大学では2017年からLECと提携し、本学内で講義を開講しています。本学学生は無料で受講が可能で（テキスト代金のみ）、経法商学科は単位取得も可能となります。

研究のひろば

多言語発音練習ソフトの開発

大学から学び始める外国語の学習は、まず発音の習得から始まる。わたしが担当する中国語は「声調」と呼ばれる抑揚の習得が難しく、基礎的な技術を身に付けるだけでも約１ヶ月を要する。当然習得のためには課外学習も必要だが、発音の「正しさ」を学習者が自身で判断することが非常に難しいというのが自習の大きな障害だった。なんとか解決する方法はないかと考えて、着目したのが音声処理技術だった。

2015 年に iPad の音声入力アプリを利用し、教材を音声入力するという形で発音練習を始めてみると、教室は予想を遥かに超えて活気付いた。「入力に成功する」という明確な目標と瞬時に分かるその結果の効果は絶大だった。ただ、アプリは語学学習用に作られたものではないため、教員が各自の練習結果を取得・管理することは難しく、教材として使い勝手が良いとは言えなかった。

そこで音声処理技術を使った発音学習ソフトの開発に思い至ったのだが、元より業者に開発を依頼する予算があるはずもなく、止むに止まれず独学でプログラミングを学んで作ったのが、現在本学で稼働している発音練習ソフト「ST Lab」のプロトタイプだ。2018 年春の完成から教室での使用を開始し、多くの人の協力と励ましを得て、昨年には科研費も取得。なんとか今の形に改良し、検証を続けている。

現在の「ST Lab」は中国語ばかりでなくドイツ語、フランス語、韓国語、日本語など 16 言語に対応している。正答率や練習履歴の表示機能を備え、音読練習をサポートする合成音声によるヘルプ機能もある。教員登録すれば誰でも簡単に教材を作成できることもソフトの特徴だ。今年度は新型コロナの感染拡大でリモート授業が急遽開始される事態となり、本ソフトに関する新聞報道の効果も相俟って教員権限申請が急増。今では全国 40 の大学･高校･専門学校で稼働するに至っている。まだまだ実現していない機能も多い。その実装と学生の学習成果の向上を夢見ながら、これからも走り続けたいと思っている。

人文学部 国際コミュニケーション学科 教授
渡邉 ゆきこ

わが ゼミナール

経法商学部 経法商学科 教授
成定 洋子

経法商学科・地域社会コースに所属する私のゼミでは、２年生と３年生は、現代社会・沖縄をめぐる労働・ジェンダー・セクシュアリティ・多様性などをテーマに、現地調査や聞き取り調査、文献調査などを通じて、歴史的背景や現状、文化表象や意味などについて多角的に考察・議論しながら、沖縄社会・文化をめぐる課題や可能性を重層的に探究することを目指しています。近年は、特に「沖縄で働く」をテーマに、県内で働く様々な業種や職種、地域や年代の人たちにインタビュー調査などを実施してきました。４年生は、卒業論文作成のゼミとして、各受講生の知的関心や問題意識に基づいた多様なテーマ（2020 年度は、大学生のアルバイト問題、ポップカルチャーと政治、大学生の夢、スマートフォンと若者、ユタと共同体、県内アパレル業界の雇用、高校野球報道、高校球児と体幹トレーニング、eスポーツなど）に関する各自の卒論に取り組んでいます。2019 年度は、学年やコースを横断した合同ゼミ活動として、労働問題や労働教育を専門とする研究者の方々を米国から招聘し、米国や沖縄で若者が働くことについて学際的に考える国際ワークショップを開催しました。ワークショップでは、米国の雇用状況を共有したり、ゼミ生が研究成果を発表したり、地域の方々が在学生や卒業生、外部講師とのグループ・ディスカッションに参加したりするなど、国際交流・地域活動としても充実した貴重な機会となりました。

また、地域貢献活動の一環として、学祭でフリーマーケットを企画運営したり、与論島でマラソンのボランティア活動に参加したりするなど、地域社会をめぐる諸関係について具体的・主体的に経験・考察する実践的な取り組みを進めてきました。他にも、現地調査や史跡・文化財巡り、地域交流などの課外学習やゼミ合宿、ゼミ対抗スポーツ大会や卒業生との交流会など、ゼミ生自身の企画やアイデアから生まれた多彩なゼミ活動が展開されており、今後もゼミ内外の様々な人たちとともに楽しく面白いゼミを作っていけたらと思います。

長寿県復活を目指して④

素敵な人間関係「絆」による健康生活

健康栄養学部　管理栄養学科　教授　新城 正紀

互いを思いやる温かいつながり（絆）を大切にし、暴力的でない相手を尊重した素敵な人間関係を構築することは、沖縄県の長寿復活にとって重要だと思います。

私は、親しい人からの暴力による被害者を早期に見つける尺度（IPV被害者発見尺度）を開発し、パートナーからの暴力に苦しんでいる人々の効果的な支援に関する研究を進めています。暴力（性暴力）、暴言や誹謗中傷などを受けた人は、脳へのダメージや精神的なストレスを抱え、健康を害し、日常生活や社会生活にも支障が生じます。

厚生労働省は国民の健康づくり運動として健康日本21（2000～2011年）、健康日本21（第二次）（2013～2022年）の活動を行っています。健康日本21（第二次）では、野菜と果物の摂取量の増加の目標として1日あたりの野菜摂取量の平均値350g、果物摂取量100g未満の割合を減らす、1日あたりの純アルコールが男性40g以上、女性20g以上の飲酒者の割合の減少、成人の喫煙率の減少および受動喫煙の機会を有する者の割合の減少などについて具体的な数値目標が示されています。

人々が健康意識を高め、健康行動をするための効果的な方法に関する研究やアプローチが進められています。人々はたばこを吸うと肺がんや慢性閉塞性肺疾患になること、多量飲酒をすると口腔咽頭がんや肝疾患（肝硬変や肝がんなど）になること、肥満・糖尿病・喫煙・精神的ストレスなどは虚血性心疾患のリスク要因であるなど、健康のリスク要因については知っています。しかし、知識があっても健康行動に結びつかない人々が多いのが課題となっています。また、家庭内での暴力（DV、ドメスティック・バイオレンス）があると、健康行動ができなくなります。

私は、家族の野菜と果物の摂取のためにグリーンスムージーを作っています（500cc／人、週に5日毎朝、2014年12月より6年間継続中）。あなたの健康行動は、家族や大切な人を幸せにし、地域貢献にもなります。さあ、はじめよう健康行動、健康生活！

My smoothie life (M.Shinjo)

©2019 Jun. Okinawa in Japan Photo by Shinjo

2020年。コロナ禍の中で暗いニュースをアートの力で明るくしたい！

オクマ プライベートビーチ & リゾートでの個展

沖縄大学が誇るアーティスト KOOTA さん（国際コミュニケーション学科４年次・比嘉康太さん）、新型コロナウイルスの影響の中で広がる不安や、SNS による誹謗中傷の問題、人種差別の問題が溢れている時代に、いま自分にできることを考え、アートの力で世の中を変えることができないかと、保育園を回り子供たちと絵を描くプロジェクトをスタートさせました。これまでに６か所の保育園を回り交流を行い、本格的にアーティスト活動をはじめて１年で、オクマ プライベートビーチ ＆ リゾートで１か月間の個展を開催するほど活動の幅を広げています。

今後も県内でデザイン系の仕事に携わりながら、アーティスト活動を続けていきます。引き続き応援、よろしくお願いします。

広報誌創刊から40年…

あの人はいま

沖縄大学広報誌は 1979 年 4 月 20 日に創刊号が発行され、今号で 153 号を迎えています。

これまでに広報誌に掲載された方のいまを紹介する企画「あの人はいま」。今回は 2009 年に法経学部法経学科に入学された「前田遼一」さんを紹介します。

前田さんは大学在籍中には国内派遣留学制度を利用し、法政大学へ 1 年間留学された経験をお持ちです。大学卒業後は、現役で那覇市役所に就職し、現在は内閣府にて業務に携わっています。大学生活のことや就職後のことについて、Zoom を利用して、お話を伺いました。

卒業時には学部長賞を受賞

Q お仕事の内容について教えてください

那覇市役所に就職してから今年度で8年目となり、現在は市町村研修生として、内閣府政策統括官付（沖縄政策担当）企画担当参事官室で勤務しています。主に沖縄振興特別推進交付金に関連する業務を通して、沖縄県や沖縄県内の各市町村が実施する様々な事業の支援を行っております。

大学時代に学んだ法令の読み方や判例研究を行ってきた経験は、地方公務員としてこれまで様々な法律に則り業務を行う中で、大いに役立ちました。

Q 沖縄大学に進学を決めた理由などお聞かせください

法律と経済を両方学べる学科が沖縄大学にはあると知り、進学を決めました。入学後に国内派遣留学制度等があることを知り、知見を広げられたらと1年間法政大学へ留学しました。通常は3年次で留学する学生が多い中で、私は2年次での留学となりました。早めに留学できたことで、沖縄大学に戻ってきてから卒業に向けてじっくり準備できたことや、県外も視野にいれた就職活動、公務員試験対策のために十分な時間が確保できたと思います。

沖縄大学は学生と先生の距離が近いのが魅力だと感じています。1年次のときからゼミがあることで、先生方から教わることはとても多くありましたし、私自身も大学での学びを早く知ることができ、不安も和らぎました。また毎年開催されるゼミナール大会やゼミ合宿を通して、仲間との交流を深めることができました。

職場内での写真

沖縄大学では学びたいことが複数ある中で、自分で選択したことをきちんと学べ、集中して勉強できました。また卒業論文では嫡出子と非嫡出子の相続分の違いに関する論文を書くことができ、非常に充実した学生生活を過ごすことができたと感じています。

Q 国内派遣留学制度を利用されたときの経験をお聞かせください

法政大学はキャンパスの数や学生数も多く、はじめはその規模の大きさに圧倒されてしまいました。特に私が通っていた市ヶ谷キャンパス内にあるボアソナード・タワーという地上27階、地下4階建ての校舎は圧巻でした（その校舎で学ぶ機会がなかったことは残念でしたが）。

またその当時、和田幹彦教授の「法と遺伝学」に関する講義を受講させていただきました。すごく貴重な経験になりました。

県外へ行き、人脈が広がり、今でも法政大学の友人とは親交を深めています。派遣留学での経験で、人生の幅はとても広がったと感じました。

Q 沖縄大学に期待することは

新聞等の報道で、後輩ががんばっている様子を見ると、とてもうれしく感じています。学んだことを活かして、県内外問わず、様々なフィールドで活躍する人材を輩出していってほしいと願います。

地方自治体の一職員としては、県内各自治体が行っているまちづくりのイベントなどに、学生の立場で積極的にご参加いただき、様々なご提言をいただければとてもうれしく思います。

Q 今後の夢をお聞かせください

学生時代の経験やこれまで配属された部署での勤務経験を活かし、今後も様々な業務を通して那覇市の発展に貢献していきたいと思っています。

前田 遼一 さん

2013年　3月　沖縄大学卒業
2013年　4月　那覇市役所入職
2013年　4月～2016年3月
福祉部保護課に配属
2016年　4月～2019年3月
こどもみらい部こども政策課に配属
2019年　4月～現在
市町村研修生として内閣府政策統括官付（沖縄政策担当）企画担当参事官室に配属

沖大の魅力に迫る

沖大散策 vol.4

沖縄大学には数々の貴重なアート作品があります。
今回は図書館内にある「琉球弧資料室」入口に掲げられている看板についてご紹介します。
「琉球弧資料室」は沖縄関係の書籍・研究文献を取り揃えていて、県内外の研究者に活用されています。貴重な資料室を物語る「看板」、その魅力に迫ります。

図書館の琉球弧資料室の看板は田場珠翠さんの作品です！

この看板は、県内外で活躍する筆文字アートの田場珠翠さんの作品です。
２０１５年に開催された講演会がご縁で、２０１６年９月に本学が主会場となった「私立大学図書館協会九州地区研究会」の開催にあたり、本学の目玉となる琉球弧資料室にふさわしい看板制作を依頼、貴重な作品が完成しました。制作秘話や作品に込められた想いなどについて田場さんにお話を伺いました。

Q 看板制作を受けるにあたって

沖縄大学は、地域に根差した大学というイメージがあり、学生さんの印象も明るく、活発な感じを受けました。生み出す力や挑戦していく力ってすごく大変なことですが、そういう学生さんたちを引き立てる教職員の方たちの寛大さも感じます。トライする学生さんの不安も受け止めチャレンジしやすい環境が沖縄大学にはあるなと感じていました。看板の依頼を受けて、重大さやプレッシャーもありましたが、沖縄大学にとって図書館が憩いの場や気づきの場になってほしいと、そのお手伝いができればと制作に臨みました。

Q 制作するにあたって時間をかけた点や苦労した点について

紙と違って今回は「木」。まずは沖縄産の資材にしたいと琉球松に決めました。木目の流れが海の流れを表現できるとも思い、きれいな曲線の木の入荷を待ったほどです。全体の形もまっすぐな形ではないのもこだわりの一つです。私の技量だけでなく、素材のもつ力もとても大事で後押ししてくれるといいますか、作品に力として発揮されるものなので、とても時間をかけ選びました。文字の色も黒ではなくて藍色を選び、文字についてもこの資料室は宝がつまっている部屋ということを「資」の部分、「貝」の文字で宝を表現したり、琉球列島が島々でなりたっているのを「弧」で表現しています。

Q 田場さんの作品は、体のすべてを使い生み出している印象を受けますが、日々の体づくりにかかせないことなどありますか

パフォーマンスのときは、自分の想いを載せて文字に現すのですが、このような依頼を受けての作品は、依頼者の想いを第一に作り上げていく、三位一体ですかね、そこが違います。毎日やっていることはウォーキングです。それと食事には気をつけています。また右利きなのですが、食べるときは左手を使います。左右、バランスよく使うことを心がけています。

Q 田場さんが一番好きな字について、コロナ禍で思うことなどについて

文字はすべて好きなのですが、「笑」という字が一番好きですね。私は右耳が聞こえづらくて、一時期、本気で笑えない時期があったんです。それが「笑」の文字に救われ、それから文字の誕生や文字の語源をたどることにより興味をもち、いまのアーティスト活動に繋がっています。
コロナ禍の中で気づいたことといいますか、「密」という字を見ますと、「ウカンムリ＝家」、「必」、「山」と文字を分解すると「家に必ずいれば、乗り越えられる山なんだな」と感じました。文字って面白いですよね。

Q 沖縄大学への今後の期待等について

新型コロナウイルスの影響で、学生さんたちは、はがゆさの中での大学生活になっているかもしれません。ただ、変革の時期なんだと思います。視点を変え、考え方を変えていく、そしてイチャリバチョーデーの精神で、先生方、地域の人々とのふれあいは大事にしてほしいと思います。人と人との関わり、融合は絶やさないでほしいですし、イチャリバは大切にしてほしいです。（イチャリバチョーデー：一度あえばみな兄弟、一期一会の意味も）

Q 田場さんの今後の夢は

書体辞書といいますか、文字からのヒントをまとめたものを作りたいと思っています。出来上がったら、この琉球弧資料室に寄贈できたらいいな。

今帰仁城跡の石碑文字や国際通りでも田場さんの作品を楽しめます。

田場 珠翠さん
筆文字アーティスト（字チカラ表現者）
（漢字の）語源×創造力×想い×道具×書体をもとに漢字を柔軟に捉え学ぶ楽しさの魅力をオリジナル書体「筆文字あーと」で発信し続けている。現在、沖縄テレビ『嘉例ニュース』に出演中。
ホームページ　http://www.earth-clan.com

沖縄大学 Webサイトをリニューアル!

沖縄大学の Web サイトが昨年の 11 月 26 日、リニューアルされました。今回のリニューアル作業は約 1 年前に開始、経営企画室を中心に、様々な部署が横断的に連携し、長い議論を重ねて実現させました。制作を担当したのは（株）ロフトワーク。多くの有名私立大学の Web サイトを手がけた実績のある会社です。リニューアルのポイントは次の通りです。

- スマホでも見やすくする（現在、訪問者の 7 割がスマホから）。
- ターゲットをまだ目標の定まっていない高校生とする。
  高校生目線で、大学での 4 年間の学びを通して視野を広げることの重要性を伝える。
- 各学科の特色と卒業後の将来とのつながりをわかりやすくする。

デザインは、沖縄大学の多様性を表現した新ロゴから展開、青を基調とした明るく爽やかな色調となっています。トップページで写真、メッセージと共に回転する多角形は、ロゴの風車の羽がモチーフで、ここから風が吹いていくことをイメージしています。生き生きとした学生たちの表情、光の溢れる風景の写真を撮影してくださったのは、雑誌や広告など、多ジャンルで活躍中の写真家･中川正子さんです。

新コンテンツの「17 歳へ。」では、卒業生だけではなく、様々な「先輩」たちが歩いている人生を紹介しながら、未来の沖縄･社会を担う若者が、視野を広げる重要性を示し、高校生が将来について考えるための素材となっています。

Web サイトは公開が始まり、これからしっかり育て、さらに充実させていきます。皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願いします。

ホームページ管理委員会　委員長（副学長）　小野 啓子

沖縄大学プロジェクトメンバー
（棚原大介･小野啓子･玉城紀子･兼島徹･金城直樹･儀間慎太･眞榮城摩紀）

「OKIDAI VISION2028」を掲げ、それを対外的にも発信していくためのロゴ改定、そして Web サイトリニューアルというとても重要なプロジェクトに携わらせていただいたことに、改めてお礼を申し上げます。60余年という沖縄大学の稀有な歴史の一コマに関わらせていただけたことを非常に光栄に感じています。このたび無事公開を迎えられたのは、何よりもプロジェクト担当者の方々をはじめ、学内の多くの皆様にご協力いただいたおかげです。

嘉数昇先生の創設における想いや、多数の困難を乗り越えられてきた歴史を知り、現在の教職員の方々の熱い想い、学生さんたちのまっすぐな姿勢に向き合う中で、沖縄大学という場にどんどんと惹かれていきました。最終的には沖縄大学、そして沖縄という場所が大好きになり、プライベートでも訪問させていただくほど情熱をもって取り組ませていただきました。

新 Web サイトのテーマは「視野を広げる」です。これからの沖縄を担う若い人たちが、学びを通じ、人生の視野を広げ、たくさんの選択肢を見つけてほしい、という願いを込めています。

「地域共創・未来共創」を理念に掲げられる沖縄大学には、学生の皆さんはもちろん、地域の方々が、視野を広げるきっかけがたくさんあると感じています。私自身も沖縄大学という場を通じ、自分自身の転機といえるほど貴重な経験をさせていただきました。

今回のプロジェクトは小さなきっかけにすぎないかもしれませんが、沖縄大学という場を起点に、これまで以上にたくさんの方々が行き交い、新しい風が生まれていくことを祈っています。この度は本当にありがとうございました。

株式会社ロフトワーク
クリエイティブディレクター　基 真理子

ロフトワーク渋谷 プロジェクトメンバー
（伊藤友美･長野彩乃）

ロフトワーク京都 プロジェクトメンバー
（藤原里美･小川敦子･基真理子）